

技術資料

は種時から、 3つの守りで ずっと安心。



ルーチン[®] ブライト

箱粒剤



紋枯病から守る
ペンフルフェン

初期害虫+チョウ目害虫
+イナゴから守る
シアントラニリプロール

いもち病から守る
イソチアニル



バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
<https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078
9:00~12:00,13:00~17:00 土日祝日および会社休日を除く



●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

P-2031 22.01.NY

製品情報の詳細は
こちらから



慣行播種
箱当り
50g

高密度播種
箱当り: 50~100g
(1kg/10aまで)

ルーチンはバイエルグループの登録商標

はじめに

ルーチン®ブライトレ剤は、イネ紋枯病防除用アルキルアミド系殺菌剤ペンフルフェン、植物病害抵抗性誘導剤のイネいもち病防除用殺菌剤のイソチアニル、水稻主要害虫に対して効果のあるアントラニリックジアミド系殺虫剤シアントラニプロールを含有した水稻育苗箱専用殺虫殺菌剤です。

本剤はBCM-161粒剤の試験コード名で一般社団法人日本植物防疫協会を通して公的試験が実施され、水稻の主要病害虫であるいもち病、紋枯病、白葉枯病、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、コブノメイガ、イネツトムシに対して優れた防除効果を示すことが確認され、平成30年1月17日付で新規農薬登録を取得いたしました。

この技術資料は今までに得られた知見を基にルーチン®ブライトレ剤の特長、作用特性、試験成績などを取りまとめたもので、今後のいもち病、紋枯病、害虫防除にご活用いただければ幸いです。

ルーチン®ブライトレ剤の特長

- 優れた紋枯病防除有効成分「ペンフルフェン」を配合しています。**
いもち病防除の定番「イソチアニル」と紋枯病と疑似紋枯症に卓効を示す「ペンフルフェン」、そして幅広い殺虫スペクトラムをもつ「シアントラニプロール」の3成分からなる育苗箱専用剤です。
- 水稻の主要病害虫に優れた防除効果と残効性を発揮します。**
いもち病、紋枯病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、チョウ目害虫に優れた効果を発揮します。イナゴ類に対しても効果が認められます。
- は種時から移植当日まで使用可能です。**
は種時覆土前から移植当日まで、幅広い時期での処理が可能です。
- QoI剤耐性いもち病菌に有効です。**
いもち病防除剤のイソチアニルは抵抗性誘導剤のため耐性菌発達リスクが低く、既存の耐性菌に対しても有効です。
- 高密度播種の場合、50~100g/箱で処理可能です。**
高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの使用量を50~100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。*ただし、10a当りの処理量は最大1kg/10aです。

もくじ

はじめに/ルーチン®ブライトレ剤の特長	2
有効成分の名称および物理的・化学的性状等/安全性(製剤)/適用病害虫および使用方法	3
有効成分の作用特性	4~5
試験成績(新農薬実用化試験成績および社内試験より抜粋)	6~8
新農薬実用化試験成績概評(抜粋)	9~11

有効成分の名称および物理的・化学的性状等

有効成分	イソチアニル	ペンフルフェン	シアントラニプロール
成分量	2.0%	2.0%	0.75%
化学名	3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド	2'-[(RS)-1,3-ジメチルブチル]-5-フルオロ-1,3-ジメチルピラゾール-4-カルボキサニリド	3-プロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジル)-4'-シアノ-2'-メチル-6-(メチルカルバモイル)ピラゾール-5-カルボキサニリド
構造式			
分子量	298.15	317.41	473.72
融点	193.7~195.1°C	111°C	224°C
水溶解度(20°C)	0.5mg/ℓ	12.4mg/ℓ	14.24mg/ℓ
蒸気圧	2.36×10 ⁻⁷ Pa(25°C)	4.1×10 ⁻⁷ Pa(20°C)	1.787×10 ⁻¹⁴ Pa(25°C)
オクタノール/水分配係数(log Pow)	2.96(25°C)	3.3(25°C)	1.94±0.11(22°C)
IRAC/FRACコード	殺菌剤分類 P3	殺菌剤分類 7	殺虫剤分類 28



商品名: ルーチン®ブライトレ剤
登録番号: 農林水産省登録 第24029号
試験名: BCM-161粒剤
種類名: シアントラニプロール・イソチアニル・ペンフルフェン粒剤
有効成分および含量: シアントラニプロール…0.75%
イソチアニル…2.0%
ペンフルフェン…2.0%
性状: 類白色細粒
有効年限: 4年

安全性(製剤)

人畜毒性: 普通物 (毒劇物に該当しないものを指すという通称)

水産動植物への影響

急性経口毒性(ラット♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg	魚類急性毒性(コイ)	LC ₅₀ (96時間) 19.9mg/ℓ
急性経皮毒性(ラット♂♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg	ミジンコ類急性遊泳阻害(ミジンコ)	EC ₅₀ (48時間) 0.056mg/ℓ
皮膚刺激性(ウサギ)	軽度の刺激性	藻類生長阻害(藻類)	ErC ₅₀ (0-72時間)>1,000mg/ℓ
眼刺激性(ウサギ)	軽度の刺激性		
皮膚感作性(モルモット)	感作性なし(ただし、イソチアニル、ペンフルフェンに感作性あり)		

適用病害虫および使用方法

(2022年1月現在の登録内容)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数*	使用方法
稲(箱育苗)	いもち病、もみ枯細菌病、紋枯病 白葉枯病、内穎褐変病 イネドロオイムシ、イネツトムシ ニカメイチュウ、フタオビコヤガ コブノメイガ、イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ、イナゴ類 ヒメトビウンカ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種時(覆土前) ~ 移植当日	本剤:1回 シアントラニプロール:1回 イソチアニル:3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回)	育苗箱の上から 均一に 散布する
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) イネヒメハモグリバエ	高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g)	移植3日前 ~ 移植当日		
	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植当日	ペンフルフェン:1回		

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

注意事項

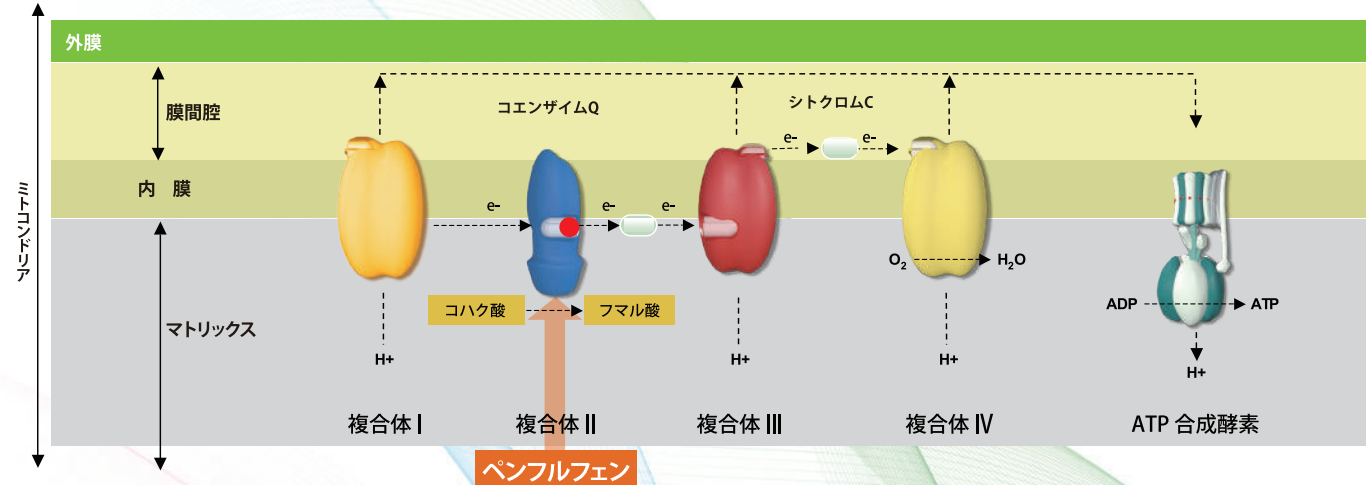
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
- 極端な低温での育苗条件下では生育抑制を生じるおそれがあるので、温度管理に注意して下さい。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植して下さい。
- ヒメトビウンカに対しては残効性に注意して下さい。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には葉害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は葉害を生じやすいので、代かきは丁寧に、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけて下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤食などのないよう注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の処置を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の処置を受けて下さい。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の処置を受けて下さい。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意して下さい。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落として下さい。
- 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないで下さい。
- 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。

★播種同時施肥機や田植同時施肥機で使用する場合は、農機販売会社に本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。

■ペンフルフェン

作用特性

- ペンフルフェンは、病原菌のミトコンドリア電子伝達系複合体IIのタンパク質(コハク酸脱水素酵素)に作用してエネルギー代謝を妨げます。
- 病原菌の主たる生育段階、すなわち菌糸伸長、胞子発芽、発芽管伸長、胞子形成などを強く阻害します。



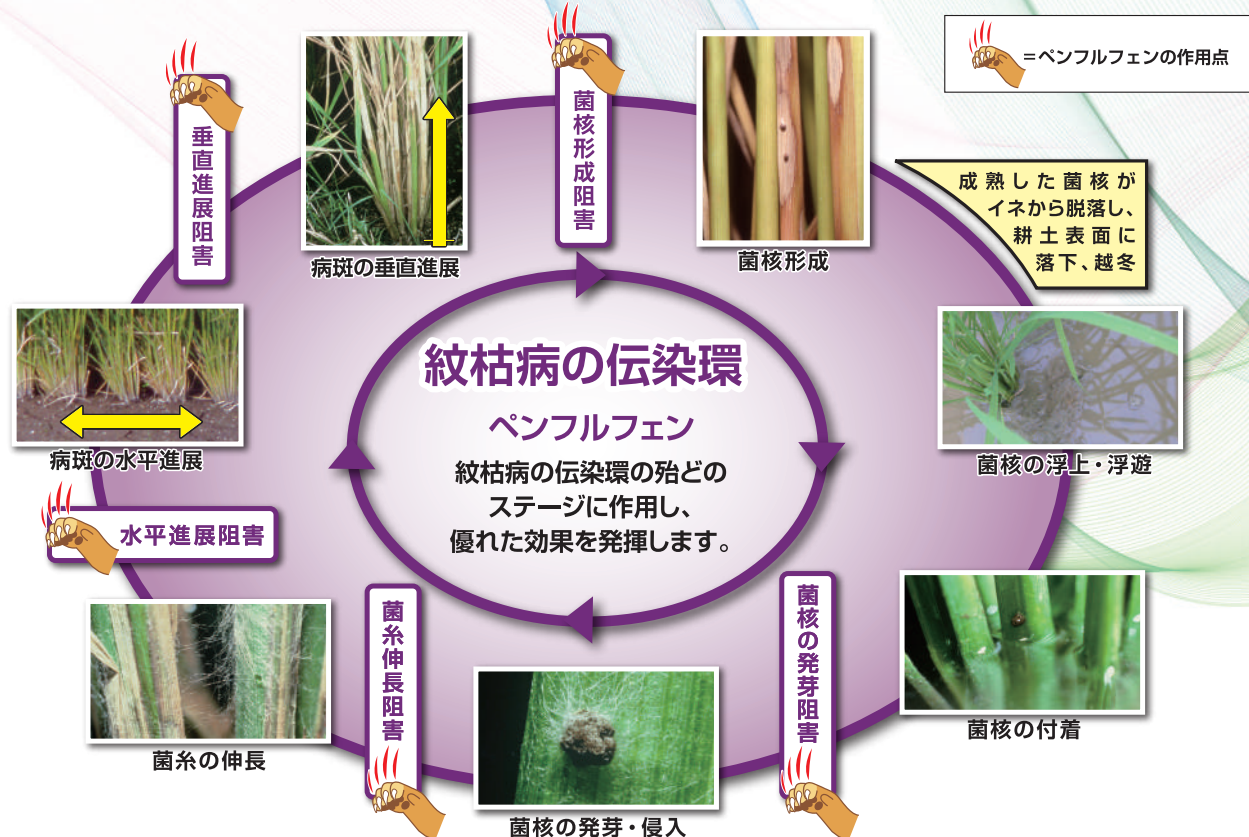
殺菌スペクトラム(稲)

- 特に紋枯病や疑似紋枯症の原因菌に対して低薬量で優れた効果を示します。

担子菌類	病名	阻害効果※	担子菌類	病名	阻害効果※
	イネ紋枯病	+++	子囊菌類	イネいもち病	+
	イネ褐色紋枯病(疑似紋枯症)	++		イネばか苗病	+
	イネ赤色菌核病(疑似紋枯症)	++		イネごま葉枯病	+
	イネ褐色菌核病(疑似紋枯症)	+++	接合菌類	イネ苗立枯病 (<i>Rhizopus oryzae</i>)	-
	イネ灰色菌核病(疑似紋枯症)	+++	卵菌類	イネ苗立枯病 (<i>Pythium sp.</i>)	-
	イネ球状菌核病(疑似紋枯症)	+++			
	イネ褐色小粒菌核病(疑似紋枯症)	+++			

※ -: 活性なし ~ ++++: 高い活性 (寒天平板希釈法による菌糸伸長阻害試験)

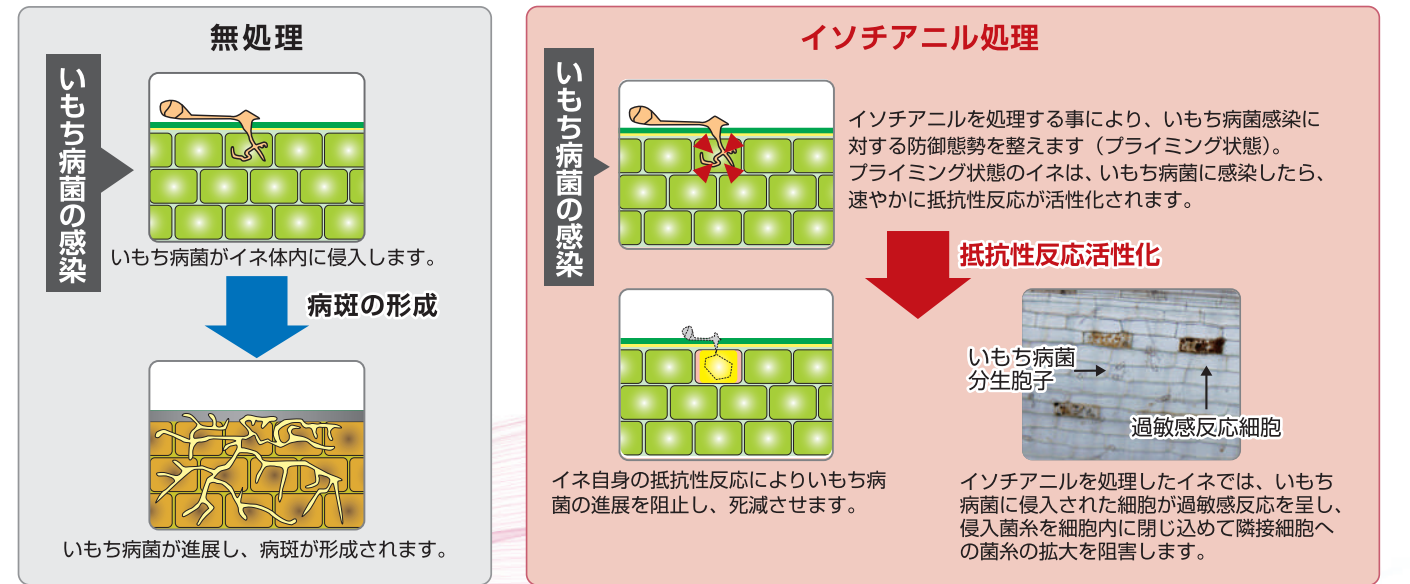
イネ紋枯病に対する作用



■イソチアニル

作用特性

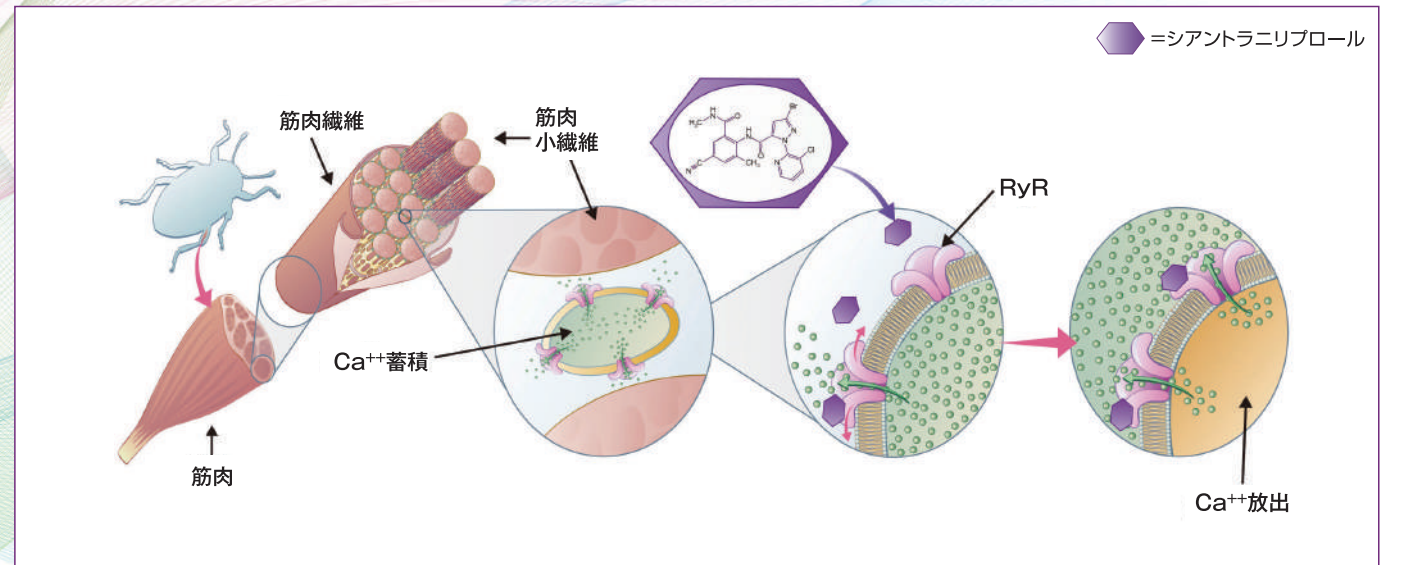
- イソチアニルは、イネが先天的に備えている自己防御機構を増強させる植物病害抵抗性誘導型殺菌剤です。
- 処理後速やかに根部より吸収されイネ体内に移行し、さまざまな病害抵抗性関連の防御反応をイネ体内に誘導することで、いもち病や白葉枯病などからイネを守ります。



■シアントラニリプロール

作用特性

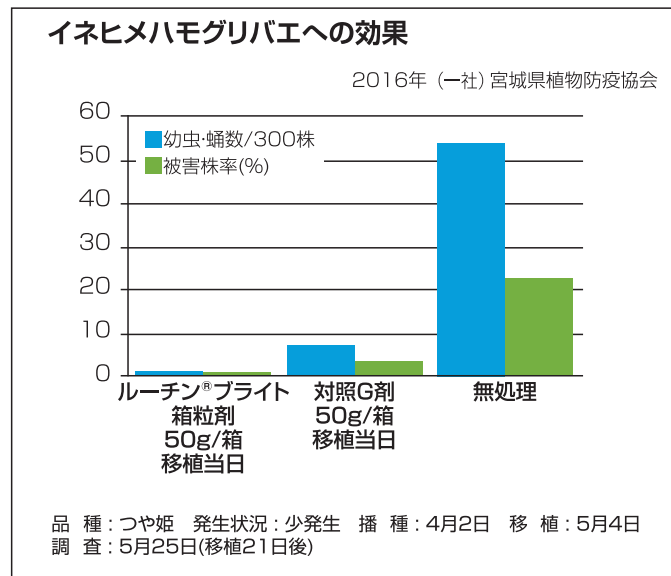
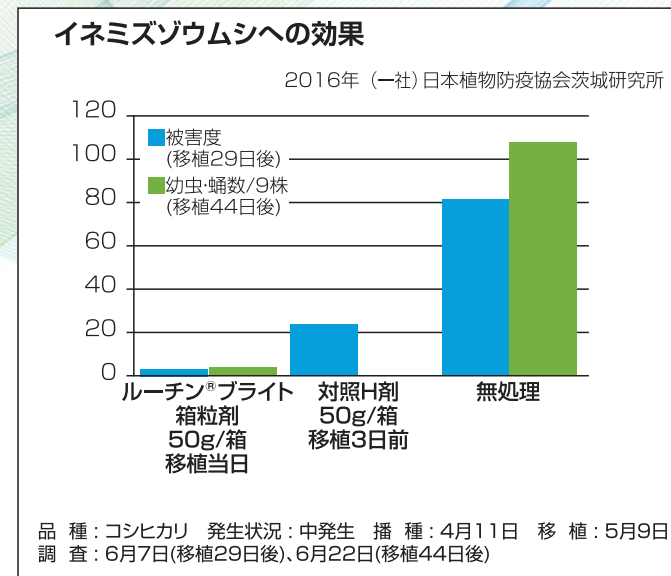
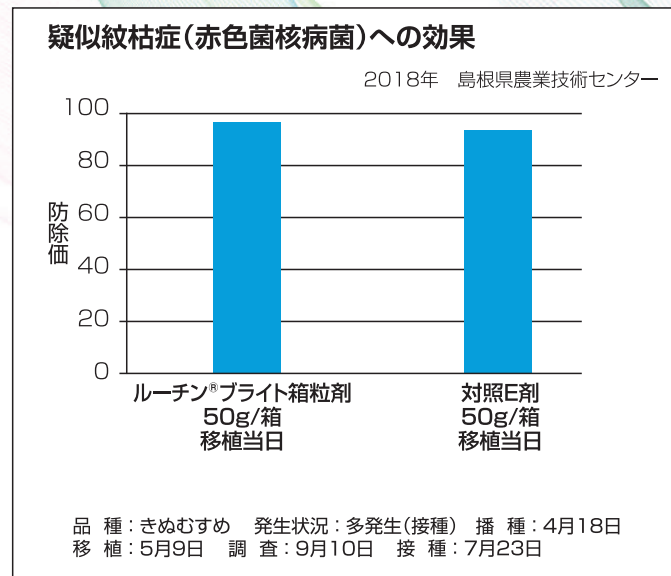
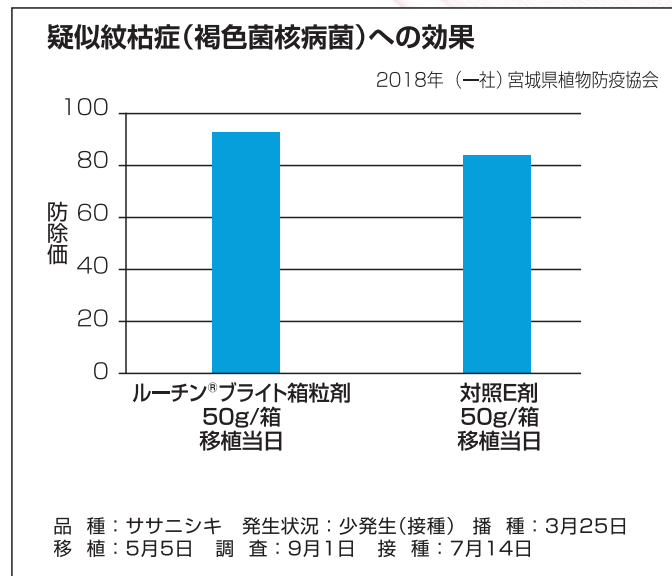
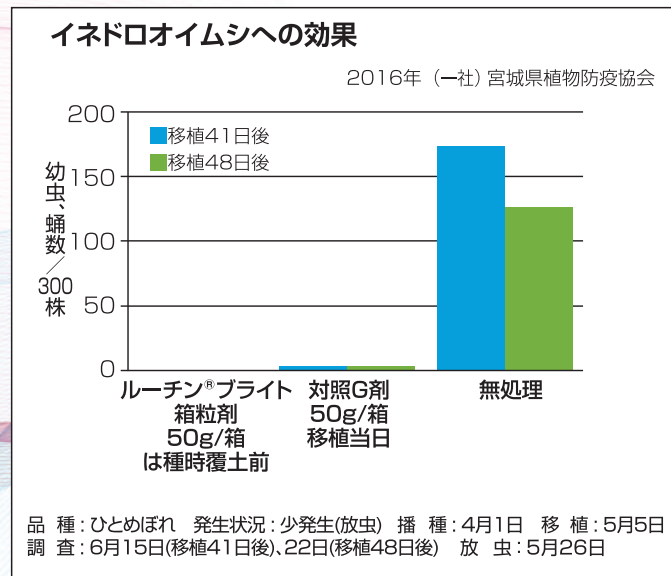
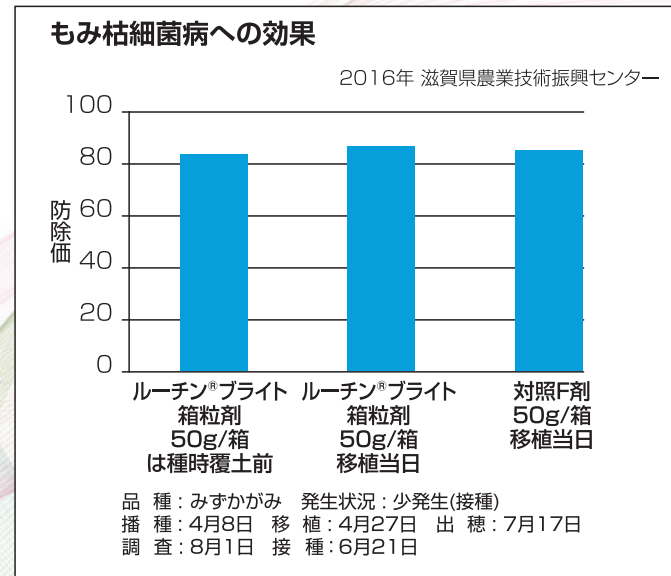
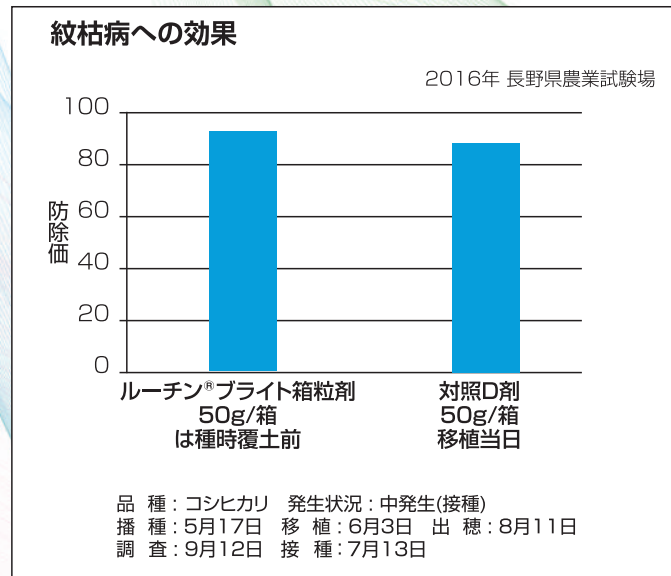
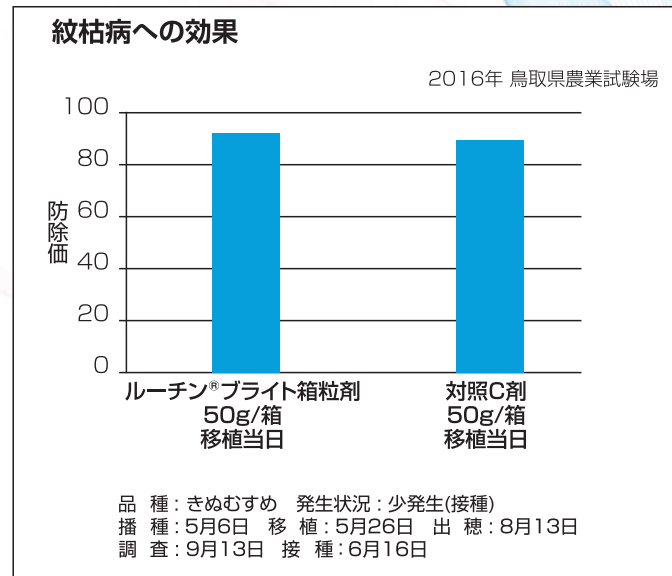
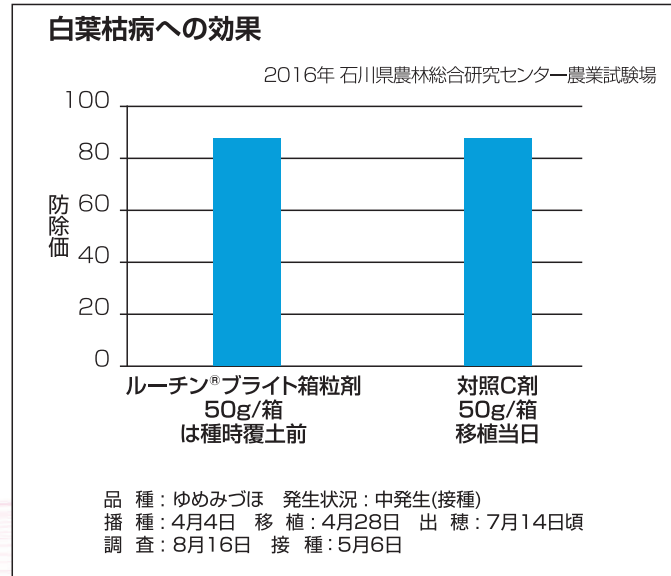
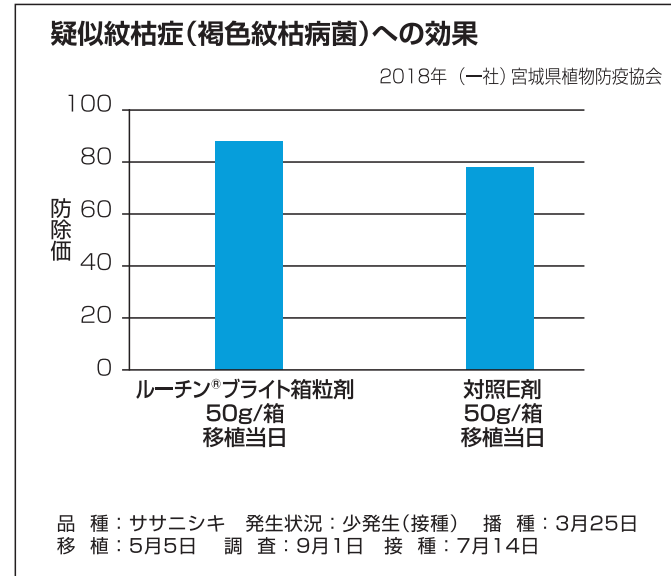
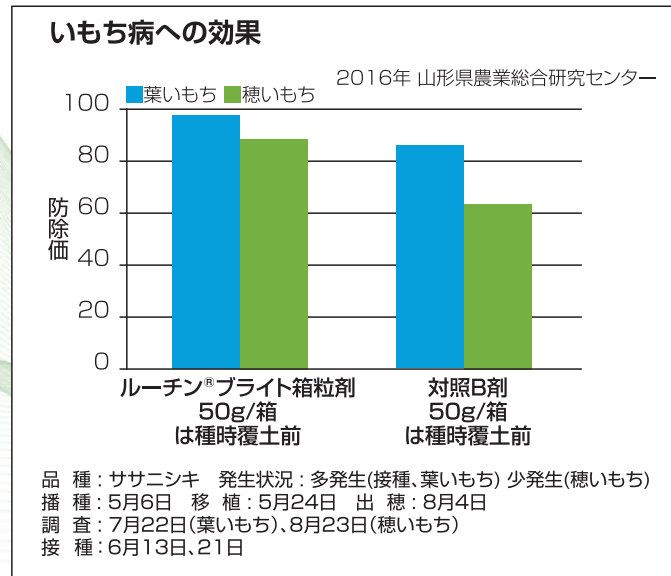
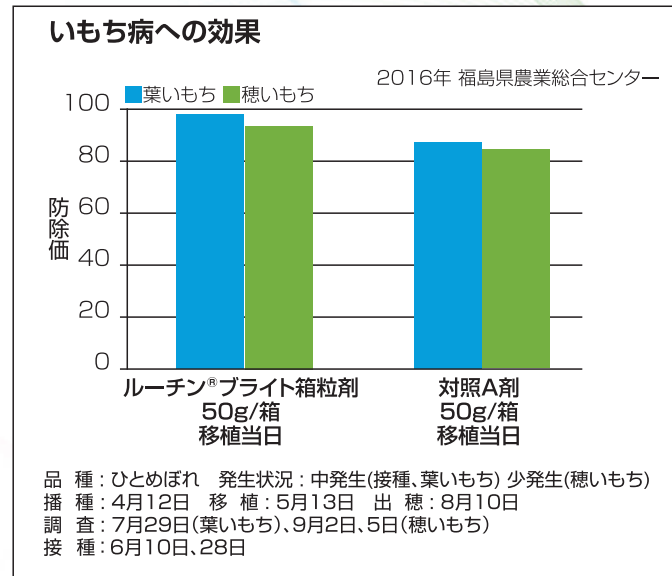
- シアントラニリプロールは筋小胞体のリアノジン受容体(RyR)に結合して筋小胞体のカルシウムイオンを細胞内に放出させます。その結果、昆虫は筋収縮を起こし速やかに活動を停止し、死亡します。



殺虫スペクトラム(稲)

目	種名	活性	目	種名	活性
チョウ目	ニカメイチュウ	○	カメムシ目	ツマグロヨコバイ	○
	コブノメイガ	○		トビイロウンカ	△
	フタオビコヤガ	○		ヒメトビウンカ	○
コウチュウ目	イネミズゾウムシ	○	セジロウンカ	△	
	イネドロオイムシ	○	バッタ目	コバネイナゴ	○
			ハエ目	イネヒメハモグリバエ	○

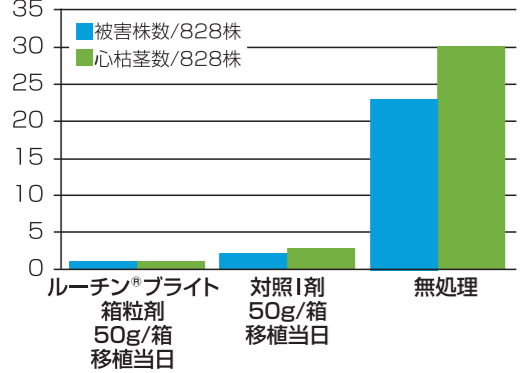
○: 活性あり △: 副次的な活性程度



試験成績 (新農薬実用化試験成績および社内試験より抜粋)

ニカメイチュウへの効果

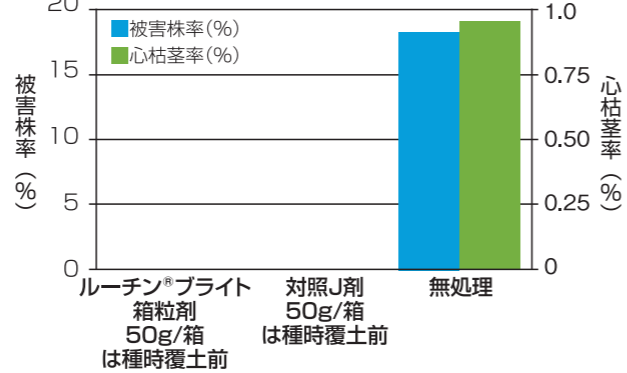
2015年 バイエルクロップサイエンス(株)圃場試験センター(高知)



品 種: ヒノヒカリ 発生状況: 少発生 播 種: 6月9日 移 植: 6月26日 調 査: 8月20日(移植55日後)

ニカメイチュウへの効果

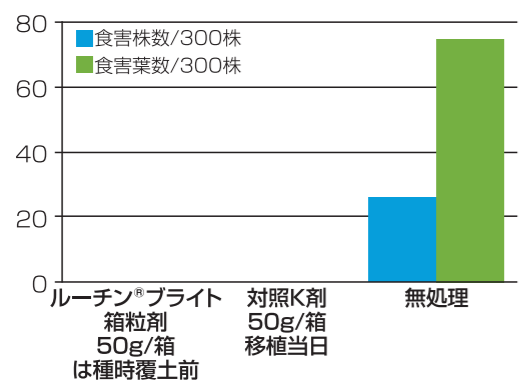
2016年 (一社) 福井県植物防疫協会



品 種: あきさかり 発生状況: 少発生 播 種: 4月10日 移 植: 5月4日 調 査: 7月20日(移植77日後)

フタオビコヤガへの効果

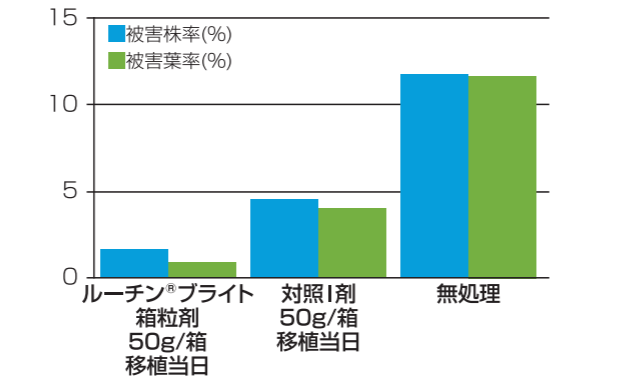
2016年 (一社) 福井県植物防疫協会



品 種: コシヒカリ 発生状況: 少発生 播 種: 4月20日 移 植: 5月15日 調 査: 7月7日(移植53日後)

コブノメイガへの効果

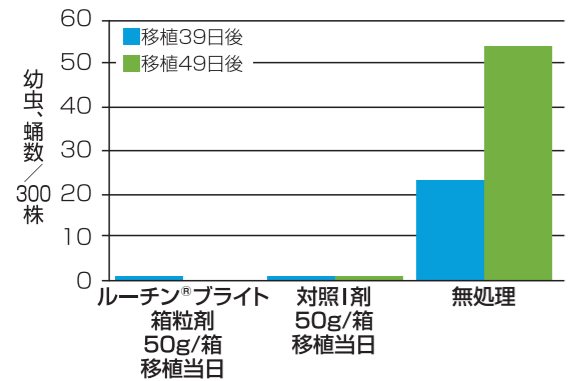
2015年 バイエルクロップサイエンス(株)圃場試験センター(高知)



品 種: ヒノヒカリ 発生状況: 中発生 播 種: 6月9日 移 植: 6月26日 調 査: 8月20日(移植55日後)

イネツトムシへの効果

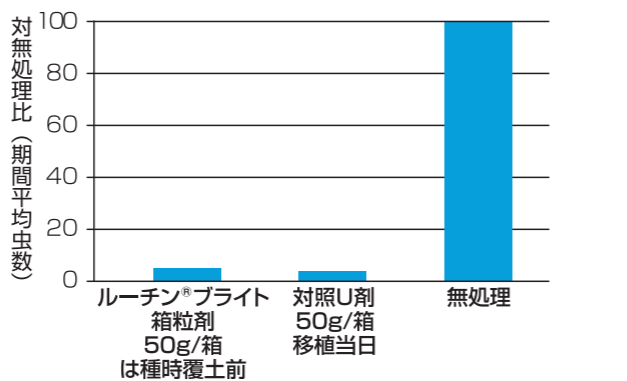
2016年 長野県農業試験場



品 種: コシヒカリ 発生状況: 少発生 播 種: 6月2日 移 植: 6月20日 調 査: 7月29日(移植39日後)、8月8日(移植49日後)

イナゴ類への効果

2018年 青森県産業技術センター農林総合研究所



品 種: まっくら 発生状況: 甚発生(期間平均虫数281匹) 播 種: 4月12日 移 植: 5月17日 調 査: 7月10日、18日、24日

新農薬実用化試験成績概評(抜粋)

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処 理 条 件			対照薬剤名(処理条件)	効 果				
						処理量	処理法	回数		対 照	対無 処理	判定	葉害	
いもち病	2016 稲(ひとめぼれ) 移植:5/13,出穂:8/6	いもち病(葉、穂) <病斑数、被害度>	宮城古川	本田	葉:中(接種) 穂:極少	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/14(は種時覆土前) <葉:7/27,穂:8/31>	対照J剤 50g/箱 は種時覆土前	葉A 穂?	A ?	A ?	-
	2016 稲(ササニシキ) 移植:5/24,出穂:8/4	いもち病(葉、穂) <病斑数、被害度>	山形	本田	葉:多(接種) 穂:少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/6(は種時覆土前) <葉:7/22,穂:8/23>	対照B剤 50g/箱 は種時覆土前	葉A 穂A	A A	B ±	-
	2016 稲(ひとめぼれ) 移植:5/13,出穂:8/10	いもち病(葉、穂) <病斑数、被害度>	福島	本田	葉:中(接種) 穂:少	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/12(は種時覆土前) <葉:7/29,8/8,穂:9/2,5>	対照B剤 50g/箱 は種時覆土前	葉B 穂B	B B	B B	± ±
	2016 稲(ひとめぼれ) 移植:5/13,出穂:8/6	いもち病(葉、穂) <病斑数、被害度>	宮城古川	本田	葉:中(接種) 穂:極少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/13(移植当日) <葉:7/27,穂:8/31>	対照M剤 50g/箱 移植当日	葉C 穂?	A ?	B ?	-
	2016 稲(ササニシキ) 移植:5/24,出穂:8/4	いもち病(葉、穂) <病斑数、被害度>	山形	本田	葉:多(接種) 穂:少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/24(移植当日) <葉:7/22,穂:8/23>	対照L剤 50g/箱 移植当日	葉B 穂B	A A	B A	-
	2016 稲(ひとめぼれ) 移植:5/13,出穂:8/10	いもち病(葉、穂) <病斑数、被害度>	福島	本田	葉:中(接種) 穂:少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/13(移植当日) <葉:7/29,8/8,穂:9/2,5>	対照A剤 50g/箱 移植当日	葉A 穂A	A A	B A	-
	2016 稲(あきたこまち) 移植:5/24,出穂:8/8	いもち病(葉、穂) <病斑数/上位3葉病斑数/病斑面積率、被害度>	秋田県立大	本田	葉:甚(接種) 穂:甚	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/24(移植当日) <葉:7/13,23,27,穂:9/1>	対照N剤 50g/箱 移植当日	葉B 穂B	B B	C C	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処 理 条 件			対照薬剤名(処理条件)	効 果				
						処理量	処理法	回数		対 照	対無 処理	判定	葉害	
紋枯病	2016 稲(秋のきらめき) 移植:5/17,出穂:7/29	紋枯病 <全体被害度>	秋田農試	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/8(は種時覆土前) <9/7>	対照D剤 50g/箱 は種時覆土前	B	A	A	+
	2016 稲(ゆめみづほ) 移植:5/2,出穂:7/14	紋枯病 <被害度>	石川	本田	極少	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/4(は種時覆土前) <8/4>	対照C剤 50g/箱 移植当日	?	?	?	-
	2016 稲(コシヒカリ) 移植:6/3,出穂:8/11	紋枯病 <全体被害度>	長野	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/17(は種時覆土前) <9/12>	対照D剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	±
	2016 稲(ゆめみづほ) 移植:5/2,出穂:7/14	紋枯病 <被害度>	石川	本田	極少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/2(移植当日) <8/4>	対照C剤 50g/箱 移植当日	?	?	?	-
	2016 稲(秋のきらめき) 移植:5/17,出穂:7/29	紋枯病 <全体被害度>	秋田農試	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/17(移植当日) <9/7>	対照O剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-
	2016 稲(きぬむすめ) 移植:5/26,出穂:8/13	紋枯病 <被害度>	鳥取農試	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/26(移植当日) <9/13>	対照C剤 50g/箱 移植当日	B	A	B	-
	2016 稲(関東90号) 移植:6/14,出穂:8/22	紋枯病 <全体被害度>	岡山	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/14(移植当日) <10/3>	対照P剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (菌名、種名) <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処 理 条 件			対照薬剤名(処理条件)	効 果				
						処理量	処理法	回数		対 照	対無 処理	判定	葉害	
疑似紋枯症	2018 稲(ササニシキ) 移植:5/5,出穂:7/28	疑似紋枯症 (褐色菌核病)	宮城植	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/5(移植当日) <9/1>	対照E剤 50g/箱 移植当日	A	A	B*	-
	2018 稲(きぬむすめ) 移植:5/9,出穂:8/6	疑似紋枯症 (褐色菌核病) <被害度>	島根	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/9(移植当日) <9/13>	対照E剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-
	2018 稲(ササニシキ) 移植:5/5,出穂:7/28	疑似紋枯症 (赤色菌核病)	宮城植	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/5(移植当日) <9/1>	対照E剤 50g/箱 移植当日	B	A	B*	-
	2018 稲(きぬむすめ) 移植:5/9,出穂:8/6	疑似紋枯症 (赤色菌核病) <被害度>	島根	本田	多(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/9(移植当日) <9/13>	対照E剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-
	2018 稲(ササニシキ) 移植:5/5,出穂:7/28	疑似紋枯症 (褐色菌核病)	宮城植	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/5(移植当日) <9/1>	対照E剤 50g/箱 移植当日	A	A	B*	-
	2019 稲(ササニシキ) 移植:5/3,出穂:8/3	疑似紋枯症 (褐色菌核病) <被害度>	宮城植	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/3(移植当日) <9/5>	対照E剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-

*少発生を考慮して判定した。

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処 理 条 件			対照薬剤名(処理条件)	効 果				
						処理量	処理法	回数		対 照	対無 処理	判定	葉害	
白葉枯病	2016 稲(ゆめみづほ) 移植:4/28,出穂:7/14	白葉枯病 (発病度)	石川	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/4(は種時覆土前) <8/16>	対照C剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-
	2016 稲(ヒノヒカリ) 移植:6/15,出穂:8/25頃	白葉枯病 (発病率、発病度)	京都府大(病)	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/18(は種時覆土前) <9/16>	対照O剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-
	2016 稲(ゆめみづほ) 移植:4/28,出穂:7/14	白葉枯病 (発病度)	石川	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/28(移植当日) <8/16>	対照C剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-
	2016 稲(ヒノヒカリ) 移植:6/15,出穂:8/25頃	白葉枯病 (発病率、発病度)	京都府大(病)	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/15(移植当日) <9/16>	対照O剤 50g/箱 移植当日	A	B	B	-
	2016 稲(ヒノヒカリ) 移植:6/3,出穂:8/20	白葉枯病 (発病率、発病率、発病度)	日植防高知	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/3(移植当日) <8/27,9/16>	対照Q剤 50g/箱 移植当日	B	A	B	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 <調査項目>	実施機関	圃場	発生状況	処 理 条 件			対照薬剤名(処理条件)	効 果				
						処理量	処理法	回数		対 照	対無 処理	判定	葉害	
もみ枯細菌病	2016 稲(コシヒカリ) 移植:5/13,出穂:7/31	もみ枯細菌病 (発病率、発病度)	日植防茨城	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/11(は種時覆土前) <8/22>	対照L剤 50g/箱 移植当日	C	B	B	-
	2016 稲(みずかみ) 移植:4/27,出穂:7/17	もみ枯細菌病(穂) (発病度)	滋賀農試セ	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/8(は種時覆土前) <穂:8/1>	対照F剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-
	2016 稲(コシヒカリ) 移植:5/30,出穂:8/8	もみ枯細菌病 (発病率、発病度)	高知大(病)	本田	甚(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/9(は種時覆土前) <8/18>	対照Q剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-
	2016 稲(コシヒカリ) 移植:5/13,出穂:7/31	もみ枯細菌病 (発病率、発病度)	日植防茨城	本田	中(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/13(移植当日) <8/22>	対照L剤 50g/箱 移植当日	C	B	B	-
	2016 稲(みずかみ) 移植:4/27,出穂:7/17	もみ枯細菌病(穂) (発病度)	滋賀農試セ	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/27(移植当日) <穂:8/1>	対照F剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-
	2016 稲(コシヒカリ) 移植:5/30,出穂:8/8	もみ枯細菌病 (発病率、発病度)	高知大(病)	本田	甚(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/30(移植当日) <8/18>	対照Q剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-

新農薬実用化試験成績概評(抜粋)



年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						処理量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無	判定	薬害
2016	稲(コシヒカリ) 移植:5/18,出穂:8/8	穂枯れ(こま葉枯病) (発病率,発病度)	日植防茨城	本田	中	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/18(移植当日) (9/12~13)	対照A剤 50g/箱 移植当日	A	C	C	-
2016	稲(キヌヒカリ) 移植:6/6,出穂:8/9	穂枯れ(こま葉枯病) (発病率,発病度)	兵庫	本田	中	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/6(移植当日) (9/8)	対照N剤 50g/箱 移植当日	A	B	B	-
2016	稲(日本晴) 移植:6/9,出穂:8/16	穂枯れ(こま葉枯病) (発病度)	山口(病虫)	本田	少(接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/9(移植当日) (9/26)	対照F剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						処理量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無	判定	薬害
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/15,出穂:8/25	内籾腐変病 (発病初数,発病度)	奈良植	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/15(は種時覆土前) (9/10)	対照R剤 50g/箱 は種時覆土前	D	C	C	-
2017	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/14,出穂:8/24	内籾腐変病 (発病初数,発病度)	奈良植	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/15(は種時覆土前) (9/4)	対照R剤 50g/箱 は種時覆土前	A	B	B	-
2017	稲(きぬむすめ) 移植:6/8,出穂:8/18	内籾腐変病 (発病度)	山口(病虫)	本田	中	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/19(は種時覆土前) (9/11)	対照K剤 50g/箱 移植当日	A	C	C	-
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/5,出穂:8/20	内籾腐変病 (発病度)	兵庫植	本田	中	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/5(移植当日) (9/23)	対照S剤 50g/箱 移植当日	B	C	C	-
2016	稲(にこまる) 移植:6/22,出穂:8/30	内籾腐変病 (発病率,発病度)	日植防岡山	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/22(移植当日) (9/21)	対照Q剤 50g/箱 移植当日	C	C	C	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						処理量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無	判定	薬害
2016	稲(あきたこまち) 移植:5/16	イネドクオイムシ (無処理比(L,P))	岩手(病虫)	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/22(は種時覆土前) 移植38日後	対照N剤 50g/箱 は種時覆土前	B	A	A	±
2016	稲(ひとめぼれ) 移植:5/5	イネドクオイムシ (密度指数(L,P))	宮城植	本田	少 (放虫)	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/1(は種時覆土前) 移植41,48日後	対照G剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-
2016	稲(コシヒカリ) 移植:5/10	イネドクオイムシ (密度指数(L,P))	J-pec (福島)	本田	中	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/18(は種時覆土前) 移植38日後	対照T剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	±
2016	稲(つがるロマン) 移植:5/19	イネドクオイムシ (幼虫食害度(L,P))	青森植	本田	極少 (放虫)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/19(移植当日) 移植42,50日後	対照U剤 50g/箱 移植3日前	?	?	?	-
2016	稲(コシヒカリ) 移植:5/9	イネドクオイムシ (密度指数(L,P))	石川植	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/9(移植当日) 処理36日後	対照V剤 50g/箱 移植当日	D	C	C	-
2016	稲(コシヒカリ) 移植:5/9	イネドクオイムシ (密度指数(L,P))	日植防茨城	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/9(移植当日) 移植29日後	対照H剤 50g/箱 移植3日前	B	A	A	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						処理量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無	判定	薬害
2016	稲(ひとめぼれ) 移植:5/16	イネミスウムシ (対無処理比(L,P))	岩手(病虫)	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/22(は種時覆土前) 移植38日後	対照N剤 50g/箱 は種時覆土前	D	C	C	±
2016	稲(コシヒカリ) 移植:4/25	イネミスウムシ (密度指数(L,P))	愛知(病虫)	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	3/29(は種時覆土前) 移植60日後	対照U剤 50g/箱 移植3日前	B	A	A	-
2016	稲(つがるロマン) 移植:5/19	イネミスウムシ (密度指数(L,P))	青森植	本田	多	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/19(移植当日) 移植50日後	対照U剤 50g/箱 移植3日前	C	B	B	-
2016	稲(ゆめみづほ) 移植:4/28	イネミスウムシ (無処理比(L,P))	石川	本田	多	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/28(移植当日) 処理68日後	対照M剤 50g/箱 移植当日	A	B	B	-
2016	稲(コシヒカリ) 移植:5/9	イネミスウムシ (密度指数(L))	日植防茨城	本田	中	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/9(移植当日) 移植44日後	対照H剤 50g/箱 移植3日前	B	A	A	-
2016	稲(あきたこまち) 移植:5/13	イネミスウムシ (密度指数(L))	長野	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/13(移植当日) 移植42日後	対照I剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						処理量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無	判定	薬害
2016	稲(あいちのかおりSBL) 移植:6/4	ツマグロヨコバイ (密度指数(A,L))	愛知(病虫)	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/12(は種時覆土前) 移植40,47日後	対照W剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-
2017	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/1	ヨコハマツグロヨコバイ (密度指数(A,L))	日植防高知	本田	無→中	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/8(は種時覆土前) 移植31,41,49日後	対照X剤 50g/箱 播種時覆土前	B	A	A	±
2017	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/26	ヨコハマツグロヨコバイ (密度指数(A,L))	日植防宮崎	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/7(は種時覆土前) 移植16,29,43,57日後	対照T剤 50g/箱 播種時覆土前	B	A	A	-
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/20	ツマグロヨコバイ (密度指数(A,L))	山口(病虫)	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/20(移植当日) 移植37日後	対照K剤 50g/箱 移植当日	D	C	C	-
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/27	ツマグロヨコバイ (密度指数(A,L))	日植防宮崎	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/27(移植当日) 移植77日後	対照Y剤 50g/箱 移植当日	B	B	B	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						処理量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無	判定	薬害
2016	稲(つがるロマン) 移植:5/19	ハモグリバエ (イネ食害度(L,P)) (対無処理比(L,P))	青森植	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/19(移植当日) 移植18,23日後	対照U剤 50g/箱 移植3日前	B	A	A	-
2016	稲(つや姫) 移植:5/4	イネヒマモグリバエ (密度指数(L,P))	宮城植	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/4(移植当日) 移植21日後	対照G剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						処理量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無	判定	薬害
2016	稲(あきたこまち) 移植:5/4	ニカメイチュウ (心枯率,無処理比)	福井植	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/10(は種時覆土前) 移植77日後	対照J剤 50g/箱 は種時覆土前	B	A	A	-
2016	稲(しずく姫) 移植:6/22	ニカメイチュウ (白穂率)	愛媛	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/3(は種時覆土前) 移植102日後	対照Z剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	±
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/27	ニカメイチュウ (心枯率)	日植防宮崎	本田	極少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/5(は種時覆土前) 移植71日後	対照Y剤 50g/箱 移植当日	?	?	?	±
2016	稲(リネエチゼン) 移植:5/5	ニカメイチュウ (心枯率,無処理比)	福井植	本田	中	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/5(移植当日) 移植75日後	対照K剤 50g/箱 移植当日	C	B	B	-
2016	稲(ゆめみづほ) 移植:5/8	ニカメイチュウ (心枯率)	石川植	本田	中 (接種)	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/8(移植当日) 移植60日後	対照V剤 50g/箱 移植当日	C	C	C	-
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/27	ニカメイチュウ (心枯率)	日植防宮崎	本田	極少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/27(移植当日) 移植71日後	対照Y剤 50g/箱 移植当日	?	?	?	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						処理量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無	判定	薬害
2016	稲(コシヒカリ) 移植:5/15	フタオビコヤガ (食害葉数,無処理比)	福井植	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/20(は種時覆土前) 移植53日後	対照K剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-
2016	稲(キヌヒカリ) 移植:6/21	フタオビコヤガ (密度指数(L))	油日(滋賀)	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/30(は種時覆土前) 移植31日後	対照AA剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-
2016	稲(しずく姫) 移植:6/22	フタオビコヤガ (被害株数,密度指数(L))	愛媛	本田	極少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/3(は種時覆土前) 移植30,54日後	対照Z剤 50g/箱 移植当日	?	?	?	±
2016	稲(コシヒカリ) 移植:5/14	フタオビコヤガ (食害葉数,無処理比)	福井植	本田	中	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/14(移植当日) 移植54日後	対照K剤 50g/箱 移植当日	A	A	A	-
2016	稲(キヌヒカリ) 移植:6/21	フタオビコヤガ (密度指数(L))	油日(滋賀)	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/21(移植当日) 移植31日後	対照AA剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-
2016	稲(しずく姫) 移植:6/22	フタオビコヤガ (被害株数,密度指数(L))	愛媛	本田	極少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/22(移植当日) 移植30,54日後	対照Z剤 50g/箱 移植当日	?	?	?	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						処理量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無	判定	薬害
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/14	コブノメイガ (被害率)	鹿児島植	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	5/26(は種時覆土前) 移植42日後	対照T剤 50g/箱 移植3日前	C	B	B	-
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/27	コブノメイガ (被害率)	日植防宮崎	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/5(は種時覆土前) 移植49~71日後	対照Y剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	±
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/20	コブノメイガ (被害率)	山口(病虫)	本田	第1:少 第2:極少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/20(移植当日) (第1:移植51日後,第2:移植79日後)	対照K剤 50g/箱 移植当日	第1:A 第2:A	A	A	-
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/27	コブノメイガ (被害率)	日植防宮崎	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/27(移植当日) 移植49~71日後	対照Y剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-
2016	稲(あきたこまち) 移植:6/10	コブノメイガ (対無処理比(被害株率))	鹿児島	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/10(移植当日) 移植39日後	対照T剤 50g/箱 移植当日	D	D	D	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						処理量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無	判定	薬害
2016	稲(しずく姫) 移植:6/28	イネツトムシ (密度指数(L))	愛媛	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/3(は種時覆土前) 移植34,45日後	対照Z剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	±
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/27	イネツトムシ (密度指数(L))	日植防宮崎	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/5(は種時覆土前) 移植22,30日後	対照Y剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	±
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/20	イネツトムシ (密度指数(L,P))	長野	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/20(移植当日) 移植49日後	対照I剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/20	イネツトムシ (つた数)	山口(病虫)	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/20(移植当日) 処理51日後	対照K剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-
2016	稲(しずく姫) 移植:6/28	イネツトムシ (密度指数(L))	愛媛	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/28(移植当日) 移植34,45日後	対照Z剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-
2016	稲(ヒノヒカリ) 移植:6/27	イネツトムシ (密度指数(L))	日植防宮崎	本田	少	50g/箱	育苗箱 施用	1	6/27(移植当日) 移植22,30日後	対照Y剤 50g/箱 移植当日	B	A	A	-

年度	作物名(品種) 栽培条件	病害虫名 (調査項目)	実施機関	圃場	発生状況	処理条件				対照薬剤名(処理条件)	効果			
						処理量	処理法	回数	処理年月日(時期) (判定した調査時期)		対照	対無	判定	薬害
2017	稲(あきたこまち) 移植:5/24,出穂:8/6	イナゴ類(ネイゴ)	岩手植	本田	少(放虫)	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/24(は種時覆土前) 移植54,62,69日後	対照U剤 50g/箱 移植当日	?	?	?	-
2017	稲(はえぬき) は種:4/20,移植:5/18	イナゴ類(ネイゴ)	山形水田	本田	多(放虫)	50g/箱	育苗箱 施用	1	4/20(は種時覆土前) 移植53日後	対照U剤 50g/箱 5/18(移植当日)	C	B	B	-
2017	稲(こしいぶき) は種:4/12,移植:5/20	イナゴ類(ネイゴ)	新潟植											